

今年は例年より早く梅雨入りし、すっきりしない天気が続きます。天気のせいか春からの疲れが出てくるせいか、この時期調子を崩す生徒もいるようです。学校行事への参加が気分転換のきっかけになればと思います。

6月号は梅雨の中休みに実施された現地集合学習と、美里分校の授業やこの春開館を始めた図書館の様子についてお届けします。

海南高等学校美里分校 マンスリータイムズ

分校の窓から

06
2021



6.11 現地集合学習

6月11日（金）に現地集合学習が行われ、全校生徒・職員で加太の街を訪ねました。この取組は、普段は専用の契約バスで登校する生徒たちが、公共交通機関を使って目的地を目指す取組で、社会生活に必要な公共交通機関の利用を体験的に学ぶとともに、郷土に対する興味・関心を持つことを目的としています。昨年は新型コロナウイルスの影響で取り止めとなり、2年振りの実施となりました。生徒たちは事前に交通手段や時刻、料金などを調べ、この日に臨みました。

生徒たちは自宅の最寄り駅・バス停から、電車・バス等を利用して、集合場所である加太・淡嶋神社に向かいます。教員は各ルート上のポイントで生徒の様子を見守りますが、

生徒たちは教員を頼らず自力で電車等乗り継いでゴールを目指します。途中、計画していたルートから外れる生徒もいましたが、集合時刻の10時30分には、全員無事に顔を揃えました。

当初の計画では、このあと船で沖合の友ヶ島に渡り、戦時中の砲台跡等を巡る予定でしたが、強風のため船が欠航になり、加太の街の自由散策に変更となりました。

加太の街は、漁師町らしい狭い路地が入り込み、古い建物が軒を連ねます。閑静で昭和の時代にタイムスリップしたかのような雰囲気は、自然に囲まれた美里分校周辺の景色とは異なり新鮮に感じられました。

次の集合時刻までの間、生徒たちは神社で

お参りやおみくじを引いたり、近くの海岸で昼食をとったり、周辺の商店で買物をしたり、思い思いに加太の街を楽しみ、皆明るい表情を見せていました。

正午前に加太駅に集合し、全員電車で和歌山市駅に移動。駅周辺で市立博物館や市立図書館等を見学したあと、15時に解散して帰路につきました。

予定していた友ヶ島見学は叶いませんでしたが、加太の街を巡り、地域にはそれぞれ特有の魅力があることに気づきました。美里分校周辺も加太の街とは違う風景が広がり、たくさんの魅力であふれています。今後はこれらに触れる機会を増やし、美里分校で学ぶ良さを感じてもらいたいと考えています。





美里分校の授業について

小さいことはいいことだ！

美里分校の全校生徒数は現在 19 名です。各クラスの生徒数は 10 人にも満たず、高校としてはたいへん規模が小さい学校のひとつです。10 年ほど前は 100 人近い生徒が在籍していましたが、近年の少子化で生徒数が大幅に減少しました。しかし、「小さいことはいいことだ！」という学校のキャッチフレーズのとおり、少人数を活かしたきめ細かい学習指導で生徒の力を伸ばしています。

教科指導は 6 名の教員が担当し、各教科に一人ずつしかいないため、全学年のクラスを受け持たなければなりません。つまり、美里分校の教員は毎年全生徒と関わり、異動等がない限り、入学時から卒業まで継続して指導に当たることになります。当然、生徒全員の名前や顔はもちろん、性格、学力、特性等も熟知し、職員室では日常的に、授業での生徒の様子を語り合う教員たちの姿が見られます。

授業では、一人ひとりの生徒とコミュニケーションを図りながら、学習状況を確認していきます。各生徒の学力、理解度、特性等を見極めながら、必要に応じて義務教育段階の内容に遡って学習し直したり、発展的な課題に取り組みせたりするなど、それぞれの状況に応じた指導を行っています。こうした指導ができるのは小規模校の強みであり、個別に最適化された指導により一人ひとりの生徒が持つ力を最大限伸ばすことを美里分校は目指しています。

一方で、少人数での学習環境はどうしても人間関係が固定的になってしまうため、『総合的な探求の時間』や 2・3 年生の学校設定科目『公民社会』では、学年の垣根を越えた多学年による学習活動を取り入れています。

また、地域交流ゲートゴルフ大会等の学校行事や太鼓部の地域イベント等への参加、放

送部の小学校での読み語りボランティア活動など、課外活動を通して地域の幅広い世代と交流を図り、豊かな人間性を育てています。

美里分校の生徒が本校を選んだのは、少人数でのきめ細かい指導や、豊かな自然に囲まれた学習環境に魅力を感じているからだと思っています。昨年度は新型コロナウイルスの影響により、こうした特色を十分に活かすことができませんでした。今年度は小規模校の強みを最大限活かし、生徒が持つ力を存分に伸ばしていきたいと考えています。



図書館が昼休みの開館を始めました

美里分校の校庭に小さな図書館があります。分校は職員の数が少なく司書もいないため、これまで図書館利用は授業で使用する時などに限られ、通常開館はしていませんでした。

そんな美里分校図書館が、今年の春から昼休みの開館を始めました（月曜・水曜）。今年、本校に赴任された数学の加藤先生が図書

館担当となり、毎週図書館を開けてくれます。古い蔵書の整理やアプリを使った分類作業に取り組み、現在の登録蔵書数は 1,000 冊程に上ります。今後も在庫蔵書登録・分類を進めるとともに、新刊購入も行う予定なので、生徒の皆さんには積極的に図書館を活用し、読書に励んでもらいたいと考えています。

開館して 2 ヶ月が経ち、図書館では読書をする生徒をはじめ、勉強をしたり、友達や加藤先生と話をしたり、ひとりでボンヤリしたりする生徒の姿が見られるようになりました。本を読んでいる人の邪魔をしなれば、読書以外の目的で図書館を利用してもかまいません。まだ利用していない生徒は一度のぞいてみてはいかがでしょうか。

小さな学校の中で自分が寛げる場所を見つけることは、学校生活を楽しく過ごす上での大切な「コツ」のひとつだと思います。まだ開館時間は限られていますが、美里分校の図書館もそんな場所になっていけば良いと考えています。

